

インターバンクの声（2017年3月21日）

10日程前には115円台中盤、一週間前も115円を挟んでの取引が続いていたドル円だが、先週の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが決まったものの、更なる利上げペースの加速が示されなかった時点から円買い・ドル売りが続いている。東京市場が休場だった昨日は、アジア時間朝からのドル売りで112円台中盤まで値下がり、ロンドン市場の昼からニューヨーク市場の朝方にかけて一旦は112円台後半に戻すも、結局ニューヨーク終盤には再び112円台中盤まで下げている。

111円台や112円台前半は絶好のドル買い水準との声もあるが、米10年債利回りが2.50%を下回り、50ドル超での取引をしばらく続けていた原油価格も50ドルを割り込む時間が長引いているとあってはドルも買い難い。

そろそろトランプ大統領が税制改革や景気対策についての具体案を示してくれないと、年初から何とかしのいできた111円台中盤の水準を割り込む可能性も高まりそうだ。

今週はイエレン連邦準備制度理事会(FRB)議長を含む複数のFOMCメンバーの講演が予定されており、新たな材料になるような話があるのか注目したい。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。